



SCA Reporter の CLI

概要

この章では、Cisco Service Control Application Reporter (SCA Reporter) の CLI (コマンドライン インターフェイス) を使用して SCA Reporter 機能を実行するさまざまな方法 (構文、スイッチ、アプリケーションのオプションなど) について説明します。

- 「CLI の概要」 (P.6-1)
- 「レポートのスケジューリング」 (P.6-1)
- 「構文と使用法」 (P.6-2)

CLI の概要

SCA Reporter の CLI (コマンドライン インターフェイス) はコマンドライン アプリケーションであり、SCA Reporter GUI の機能を補足するものです。CLI は、SCA Reporter の GUI よりも高機能で柔軟であり、サードパーティ製アプリケーションに統合して使用量ベースの出力および統計ベースの出力を生成できます。

CLI は、次の機能を備えています。

- Windows または Linux 環境で実行できます。
- 定義済みのレポート インスタンスを実行したり、レポート テンプレートを使用方法を使用したりできます。
- レポートを定期的に生成するようにスケジューリングできます。

レポートのスケジューリング

Reporter CLI を使用すると、選択したレポートを定期的に生成できます。これを行うには、外部のスケジューリング ユーティリティ (cron、PyCron、Windows スケジューラなど) を設定する必要があります。次の項で説明するとおり、既存のレポート インスタンス、またはレポート テンプレートを使用方法を使用できます。

次に示すのは、1 時間ごとに「Global Bandwidth per Service」レポートを生成する cron 行の例です。

```
20 * * * * reportercmd -report "Global Bandwidth per Service #1" -params \  
"numhours=24;units=Mbit/s;avgdata=true;trafficdir=Both Directions" \ -format jpeg -o  
GBpS1.jpeg
```

構文と使用法

SCA Reporter をコマンドラインバージョンとして実行し、入力をパラメータとして渡すことができます。[Templates] ビューでは、レポート インスタンスまたはレポート テンプレートのいずれかから CLI コマンドを作成できます。データベース情報および SCE プラットフォームの IP パラメータは、作成された CLI コマンドに設定済みパラメータとともに組み込まれます。

コマンドを作成すると、そのコマンドは自動的にクリップボードにコピーされるので、コマンド ファイル シェルまたはコマンド プロンプトに貼り付け、必要な変更を加えてから実行できます。データを保存するためのファイル名と形式を追加する必要があります。これらのパラメータは、コマンド作成時には含まれていません。

元のレポート インスタンスに存在するすべてのパラメータが、`params` スイッチに組み込まれるわけではありません。パラメータが CLI 呼び出しで具体的にリストされていないときは、次のようになります。

- コマンドがレポート インスタンスに基づいている場合、その値はレポート インスタンスから取得されます。
- コマンドがレポート テンプレートに基づいている場合は、デフォルト値が使用されます（デフォルト値のない必須パラメータの値は定義する必要があります）。
- 「コマンドラインの使用法」(P.6-2)
- 「コマンドライン スイッチ」(P.6-3)
- 「コマンドライン オプション」(P.6-4)
- 「レポート インスタンスでの Reporter コマンドの生成方法」(P.6-5)
- 「レポート テンプレートでの Reporter コマンドの生成方法」(P.6-7)

コマンドラインの使用法

SCA Reporter アプリケーションは、次のようなコマンドを使用してレポート インスタンスに対して呼び出すことができます。

```
reportercmd -report "Global Bandwidth per Service #1" -dbdriver "com.mysql.jdbc.Driver"
-dburl "jdbc:mysql://10.56.201.89:3306/apricot" -dbuser "pqb_admin" -dbpassword
"pqb_admin" -policysce "10.56.201.87" -params "titleText=Global Bandwidth per
Service;services=Flash Yahoo,HTTP,Google Talk File Transfer,Other
Flash;numhours=24000;trafficdir=Both Directions;link=Link 0,Link
1;showSce=false;avgdata=true;units=Mbps" -o "myfile" -format "jpeg"
```

SCA Reporter アプリケーションは、次のようなコマンドを使用してレポート テンプレートに対して呼び出すことができます。

```
reportercmd -template "Global Bandwidth per Service" -dbdriver
"com.sybase.jdbc3.jdbc.SybDriver" -dburl "jdbc:sybase:Tds://10.56.99.13:4100" -dbuser
"pqb_admin" -dbpassword "pqb_admin" -policysce "10.56.98.10" -params "endtime=2008-04-13
10:46:20;titleText=Global Bandwidth per Service;services=Flash Yahoo,HTTP,Google Talk File
Transfer,Other Flash;numhours=24000;starttime=2008-04-12 10:46:20;trafficdir=Both
Directions;seip=10.56.201.87;link=Link 0,Link 1;showSce=false;avgdata=true;units=Mbps"
-hierarchy services;1 -o "myfile" -format "jpeg"
```

SCA Reporter から CLI コマンドの基礎となる文字列を生成できます。生成されたコマンドには、`-o` パラメータや `-format` パラメータは含まれていません。これらはコマンドに追加する必要があります。その他のパラメータを修正することもできます。

コマンドライン スイッチ

SCA Reporter アプリケーションを呼び出す際、コマンドラインに次のスイッチを含めることができます。

- `-report`
 - `-dbdriver`
 - `-dburl`
 - `-dbuser`
 - `-dbpassword`
 - `-policysce`
 - `-params`
 - `-o`
 - `-format`
 - `-show`
- `-template`
 - `-dbdriver`
 - `-dburl`
 - `-dbuser`
 - `-dbpassword`
 - `-policysce`
 - `-params`
 - `-o`
 - `-format`
 - `-show`
- `-help`
- `-list`

コマンドラインオプション

SCA Reporter アプリケーションを呼び出すコマンドラインのオプションについて、表 6-1 で説明します。

表 6-1 SCA Reporter アプリケーションのコマンドライン オプション

オプション	SCA Reporter による処理	説明
<code>-report "report-name"</code>	指定された名前のレポート インスタンスを使用して、レポートを生成します。	このパラメータは、既存のレポート インスタンスからレポートを生成するときに使用します。
<code>-template "template-name"</code>	指定された名前のレポート テンプレートを使用して、レポートを生成します。	このパラメータは、テンプレートからレポートを生成するときに使用します。
<code>-dbdriver "db-driver"</code>	データベースのドライバ	SCA Reporter で設定されているものと同じデータベース
<code>-dburl "db-url"</code>	データベースの URL	—
<code>-dbuser "db-user"</code>	データベースのユーザ	—
<code>-dbpassword "db-password"</code>	データベースのパスワード	—
<code>-policysce "IP of SCE for policy data"</code>	サービス コンフィギュレーション データがレポートで使用される SCE プラットフォームの IP アドレス	SCA Reporter で設定されている SCE プラットフォームの IP アドレス
<code>-params "param1=value1;..."</code>	[Properties] ビューからのパラメータ	特定のパラメータを指定しない場合は、デフォルト値が使用されます。
<code>-o "filename"</code>	出力を保存するファイルの名前	そのファイル名がすでに存在する場合、元のファイルは上書きされます。
<code>-format "fileformat"</code>	レポートをグラフとして出力するか、表として出力するかを指定します。fileformat パラメータには、次の値のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> jpeg csv pdf 	—
<code>-show</code>	実行せずに、レポートまたはテンプレートの構造 (パラメータを含む) を表示します。	—
<code>-help</code>	—	—

表 6-1 SCA Reporter アプリケーションのコマンドライン オプション (続き)

オプション	SCA Reporter による処理	説明
-list	すべてのテンプレート グループとレポート テンプレートの一覧を出力します。	—
-hierarchy "mode; level; group-for sorted"	レポート階層アトリビュートを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> mode : 階層ツリーのモード。このアトリビュートでは、次のいずれかの値を使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> services : サービス重要度モード sorted : 設定済みサービスツリーモード level : ツリーが展開されているときのデフォルト レベル。 group-for sorted : 各グループに含める項目数。 <p>(注) このアトリビュートは、sorted が指定されている場合のみ関連します。</p>	—

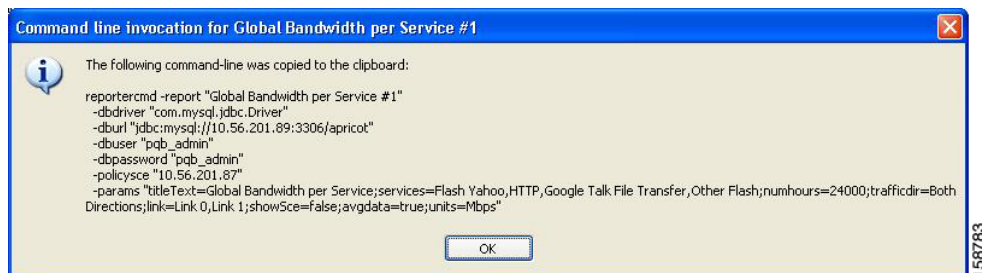
レポート インスタンスでの Reporter コマンドの生成方法

ステップ 1 [Templates] ビューからレポート インスタンスを選択します。

ステップ 2 タブのドロップダウン メニューから [Show Cmd] を選択します。

コマンドライン呼び出しダイアログボックスが表示され (図 6-1 を参照)、生成されたコマンドが表示されます。

図 6-1 コマンドライン呼び出しダイアログ



ステップ 3 [OK] をクリックします。

コマンドおよびすべてのスイッチとパラメータがクリップボードに配置されます。

■ レポートインスタンスでの Reporter コマンドの生成方法

ステップ 4 ファイルまたはコマンドプロンプトを開きます。

次のいずれかを実行します。

- シェルからコマンドを実行するファイルを開き、Reporter ディレクトリにファイルを保存します。
- CLI コマンドを実行するコマンドプロンプトを開き、ディレクトリを Reporter ディレクトリに変更します。

ステップ 5 クリップボードの内容を貼り付けます。

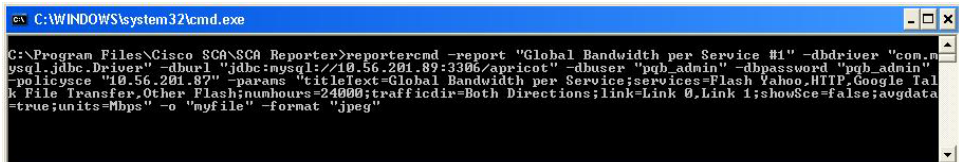
ファイルまたはコマンドラインにコマンドが貼り付けられます。

ステップ 6 必須フラグを追加します。

- `-o "filename"`
- `-format "fileformat"`

ステップ 7 (オプション) パラメータを変更します。たとえば numhours パラメータを変更します (図 6-2 を参照)。

図 6-2 パラメータ変更の例



```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\Program Files\Cisco\SCA\SCA Reporter>reportercmd -report "Global Bandwidth per Service #1" -dbdriver "com.mysql.jdbc.Driver" -dburl "jdbc:mysql://10.56.201.89:3306/apricot" -dbuser "nqb_admin" -dbpassword "nqb_admin" -policy "10.56.201.87" -params "titleText=Global Bandwidth per Service;services=Flash Yahoo,HTTP,Google Talk File Transfer,Other Flash;numhours=24000;trafficdir=Both Directions;link=Link 0,Link 1;showSec=false;avgdata=true;units=Mbps" -o "myFile" -format "jpeg"
```

ステップ 8 コマンドを実行します。

エクスポートされたファイルが定義済みディレクトリに保存され、レポートインスタンス名にタイムスタンプが付きます。

レポート テンプレートでの Reporter コマンドの生成方法

- ステップ 1** [Templates] ビューからレポート テンプレートを選択します。
- ステップ 2** タブのドロップダウン メニューから [Show Cmd] を選択します (図 6-3 を参照)。
コマンドライン呼び出しダイアログボックスが表示され、生成されたコマンドが表示されます。

図 6-3 コマンドライン呼び出しダイアログ



デフォルト値があるパラメータには、デフォルト値が付与されます。デフォルト値のない必須パラメータは、____ (下線) の値で示されます。

- ステップ 3** [OK] をクリックします。
コマンドおよびすべてのスイッチとパラメータがクリップボードに配置されます。
- ステップ 4** ファイルまたはコマンド プロンプトを開きます。
次のいずれかを実行します。
- シェルからコマンドを実行するファイルを開き、Reporter ディレクトリにファイルを保存します。
 - CLI コマンドを実行するコマンド プロンプトを開き、ディレクトリを Reporter ディレクトリに変更します。
- ステップ 5** クリップボードの内容を貼り付けます。
ファイルまたはコマンド ラインにコマンドが貼り付けられます。
- ステップ 6** 必須フラグを追加します。
- `-o "filename"`
 - `-format "fileformat"`
- ステップ 7** (オプション) パラメータを変更します。たとえば numhours パラメータを変更します (図 6-4 を参照)。

図 6-4 パラメータ変更の例

```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
C:\Program Files\Cisco\SCA\SCA Reporter>reportercmd -template "Global Bandwidth per Service" -dbdriver "com.sybase.jdbc3.jdbc.SybDriver" -dburl "jdbc:sybase:Tds:10.56.99.13:4100" -dbuser "pqb_admin" -dbpassword "pqb_admin" -policysce "10.56.98.10" -params "endtime=2008-04-13 10:46:20;titleText=Global Bandwidth per Service;services=Flash Yahoo,HTTP,Google Talk,File Transfer,Other Flash;numhours=24000;starttime=2008-04-12 10:46:20;trafficdir=Both Directions;seip=10.56.201.87;link=Link 0,Link 1;showSce=false;avgdata=true;units=Mbps" -hierarchy services;l -o "myfile" -format "jpeg"_"
```

ステップ 8 コマンドを実行します。

エクスポートされたファイルが定義済みディレクトリに保存され、レポートインスタンス名にタイムスタンプが付きます。